

訪問型子育て相談のあり方について

The Way of the Visit Type Childcare Consultation Support

潮谷 光人
SHIOTANI Kojin

本研究は、平成27年10月9日から平成28年3月31日に実施された「奈良市児童虐待再発防止訪問型支援システム事業」の実施および報告書¹⁾の作成から導出された訪問型子育て相談の意義について検討したものである。ここでは、一般的な家庭においても訪問型子育て相談へのニーズがあることが明らかとなり、今後、乳児家庭全戸訪問事業や養育支援訪問事業などの既存の訪問相談との連携を行っていく中で、虐待などに対する予防的な機能を果たしていく可能性があることがわかった。本研究では、事業の内容とその結果、そこから見えてきた今後の訪問型相談支援のあり方について問題提起を行う。

キーワード：子育て支援、虐待予防、訪問型子育て支援、子育て支援における地域包括支援

Key Words : Childcare Support, Prevention of Abuse, Visit Type Childcare Consultation Support, Local Inclusion Support in the Childcare Support

1. はじめに

現在、子育ての家庭における訪問支援活動として、乳児家庭全戸訪問事業や養育支援訪問事業、また保健師の訪問活動などがある。乳児家庭全戸訪問事業は、4ヵ月未満の乳児を抱える家庭への母子の健康状態を把握するとともに、虐待のリスクのない状況であるか確認するものである。また、養育支援訪問事業は虐待のリスクや子育て不安の強い家庭に対し訪問し、支援していくものである。この二つの訪問事業は、単発の訪問であったり、虐待対応の訪問であり、子育て家庭の軽微な相談があったり、不安を抱えている際に利用できる訪問相談とはなっていない。本研究で取り扱う「奈良市児童虐待再発防止訪問型支援システム事業」は、一般家庭における訪問相談のニーズへ対応するというものであり、子育て不安の増大や虐待といった問題を引き起こす前に対応できる事業として、重要な役割を果たす可能性があると考えられる。子育て家庭における虐待や貧困など様々な課題が多くある中、本事業の実施における調査研究が、今後の子育て支援のひとつの方向性を示すものとなることを期待したい。とりわけ平成27年1月に示された「地域子ども・子育て支援事業について」²⁾における利用者支援事業や子育て世代包括支援センターの役割と方向性のなかで、訪問型子育て相談支援が検討されていく資料になることを願っている。

2. 研究の目的

本研究は、「奈良市児童虐待再発防止訪問型支援システム事業」から導出された訪問型子育て相談の意義について検討するものである。筆者は、本事業における第三者評価委員会の委員長として関わり、事業実施の進捗や課題、調査分析について、第三者としてスーパーバイズを行うなどをしてきた。本研究は、そのような関わりの中で、様々な子育て相談の場所や訪問支援のあるなか、この事業が子育て中の養育者にとってどのような意味があるのか、そもそも一般の家庭において訪問型子育て相談のニーズがあるのかといった検討を行い、今後の子育て支援のあり方について考察するものである。また、本事業の重要性や課題について考察することが、今後の「子育て支援における地域包括支援システム」を構築する上で、重要であると考えた。

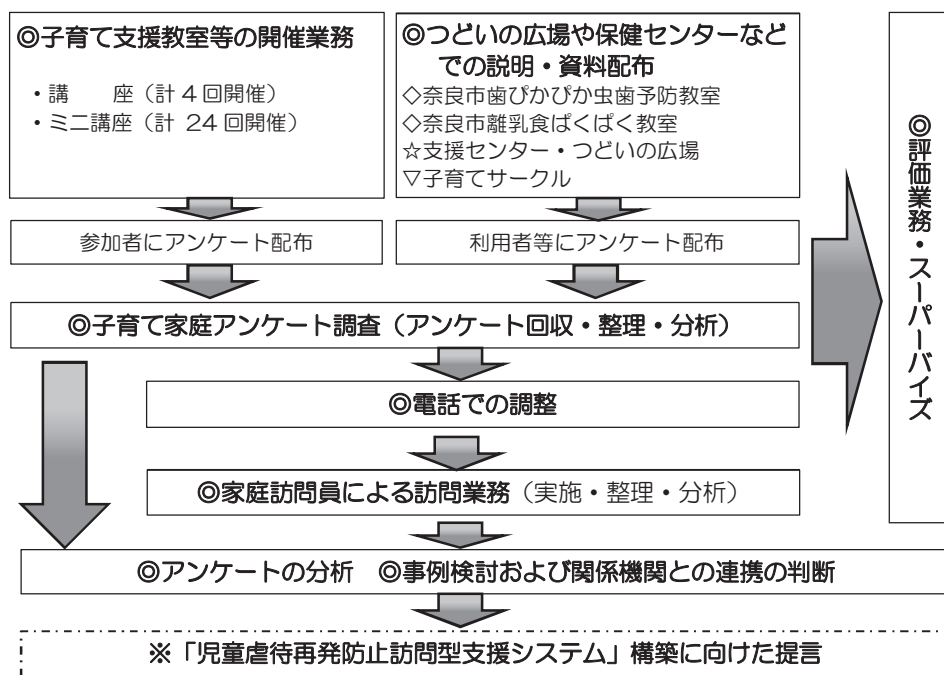


図1 事業実施の方法（Ms ねっと報告書³⁾の図をもとに一部加筆）

3. 「奈良市児童虐待再発防止訪問型支援システム事業」の内容

3-1 事業実施の背景

そもそも本事業は、内閣府が実施した「平成26年地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）」において奈良市により事業提案がなされ、平成27年に奈良市で子育て支援センターをはじめ幅広く子育て支援を実施している特定非営利活動法人「Ms ねっと」に、事業委託されたものである。

3-2 事業の方法

児童虐待再発防止という名称において実施されている事業であるが、その目的は虐待のハイリスクを抱えた家庭への再発防止のための訪問支援ではなく、潜在的なリスクを抱える一般的な家庭への訪問支援として実施されたものである。実施の手法としては、子育てをしている養育者の興味のある講座などを実施し、参加した方へアンケートを行い訪問相談に対する希望の有無を把握し、訪問希望のあった家庭に訪問、相談実施するというものである。本事業の目的として、以下の3点がある。

- ①孤立化している家族をいろいろな社会資源につなげる
- ②支援対象者の生活における問題を解決に導くための支援を行う
- ③今回の訪問支援において課題を提示し、今後の訪問支援のあり方を考えていく土台を提案する

4. 活動意義の検討

4-1 研究の方法

本事業における子育て講座やアンケート、訪問相談の実施結果および訪問時の相談内容から導出された活動の意義について検討を行い、他の事業との比較や利用者支援事業をはじめとした地域包括支援のなかにおける位置づけについて検討を行う。

4-2 アンケートの配布と実施件数

アンケート配布期間（平成27年11月9日～平成28年2月29日）であり、配布件数800件のうち回収が242件となっており、実際の訪問実施は89件である。「つどいの広場」や「地域子育て支援センター」での配布をはじめ、保健所などでの健康講座、子育て支援での講座やミニ講座の際配布し、この結果、配布数800票に対し、回収数は242票、回収率は30.3%となった。回収率30%は、決して高くなく、概ね平均的な数値であると考えら

表1 アンケートの配布と実施状況

入手場所	回答数	%	配付数	回答数/配付数
1 つどいの広場・支援センター	84 票	34.7%	91 票	92.3%
2 ぱくぱく教室	40 票	16.5%	214 票	18.7%
3 ぴかぴか教室	28 票	11.6%	155 票	18.1%
4 はぐくみセンター・保育所等	29 票	12.0%	—	—
5 講座・ミニ講座	20 票	8.3%	269 票	7.4%
6 子育てサークル	11 票	4.5%	71 票	15.5%
7 交流会	1 票	0.4%	—	—
8 その他	2 票	0.8%	—	—
9 無回答	27 票	11.2%	—	—
合計	242 票	100.0%	800 票	30.3%

れる。背景として、訪問につなげるために住所や氏名・電話番号などの個人情報を明記することや聴取項目が子育てに不安や悩みのある人向けになっていたため、回収数が低い理由と想定される。しかし重要な点として、本事業の目的は、アンケート実施ではなく訪問相談に結びつけることである。その点からすると、実際の訪問実施が 89 件となっている。これは、アンケートの配布人数 800 人から見ると 11.1%、回収人数 242 人からみると 36.7%の訪問実施となっている。半年に満たない活動の中で、89 人という訪問実施人数は、一般家庭に訪問型子育て相談に一定のニーズがあると評価してよいと考える。相談員に家へ来てもらい、相談をするという行為は普通は嫌がられるように思われるが、家に来て話を聞いて欲しいと考える養育者は意外に多いのである。

4-3 アンケートの回答結果と分析

アンケートにおいては、属性などとともに「子育ての不安に関して 24 項目の質問を実施し、4 段階の評価を点数化している。

(1) 子どもの年齢 (表 2)

「0 歳」が 50.8%、「1 歳～2 歳」が 49.2%、「3 歳～4 歳」が 19.0%となっており、小さい子どもを抱える親から回収されていることがわかる。

(2) 子どもの人数 (表 3)

「1 人」が 77.7%であり、「2 人」が 17.4%、「3 人」が 5.0%となっており、一人のお子さんを抱える親からの回答がほとんどであることが分かる。

表 2 子どもの年齢 (複数回答)

	回答数	0	10	20	30	40	50	60
1 0歳	123	50.8 (MA%)						
2 1歳～2歳	119	49.2						
3 3歳～4歳	46	19.0						
4 5歳～6歳	11	4.5						
5 7歳以上	17	7.0						
無回答	0	0.0						
回答総数	316							
全体	242							

表 3 子どもの人数

	回答数	0	10	20	30	40	50	60	70	80	
1 1人	188	77.7 (%)									
2 2人	42	17.4									
3 3人	12	5.0									
4 4人	0	0.0									
5 5人	0	0.0									
無回答	0	0.0									
全体	242										

表4 同居家族（複数回答）

	回答数	0	20	40	60	80	100 (MA%)	
1 配偶者	239							98.8
2 義母	7							2.9
3 義父	4							1.7
4 実母	8							3.3
5 実父	3							1.2
6 その他	4							1.7
無回答	0							0.0
回答総数	265							
全体	242							

表5 回答者の年齢

	回答数	0	10	20	30	40	50 (%)	
1 20歳未満	0							0.0
2 20歳～24歳	2							0.8
3 25歳～29歳	35							14.5
4 30歳～34歳	108							44.6
5 35歳～39歳	62							25.6
6 40歳以上	34							14.0
無回答	1							0.4
全体	242							

表6 居住年数

	回答数	0	10	20	30	40	50	60 (%)
1 1年以下	42							17.4
2 5年以下	121							50.0
3 6年以上	78							32.2
無回答	1							0.4
全体	242							

表7 つどいの広場、支援センターの利用経験

	回答数	0	10	20	30	40	50	60	70	80 (%)		
1 利用している	182											75.2
2 利用していない	58											24.0
無回答	2											0.8
全体	242											

(3) 同居の家族（表4）

「配偶者」が98.4%、「実母」が3.7%、「義母」が3.2%となっており、多くが配偶者のいる家族の形態の方たちが回答されている。また、回答を詳しく見ると配偶者のいない3人については、「実母」が1人、「実母と実父」が1人、母子家庭は1人であった。

(4) 回答者の年齢（表5）

「30歳～34歳」が44.6%と最も多く、次いで「35歳～39歳」が25.6%、「25歳～29歳」が14.5%となっている。『30歳代』が合わせて70.2%と7割を超えている。また、20歳未満や20代前半が少ない状況となっている。

(5) 居住年数（表6）

「5年以下」が50.0%と最も多く、次いで「6年以上」が32.2%、「1年以下」が17.4%となっている。

4%となっている。5年以内を合計すると、67.4%となり3人に2人以上となっている。子どもの年齢と合わせて考えると、5年以内に、現所在地に転居し子どもを産んだ、あるいは子どもができて現所在地に転居した人が多いことがうかがえる。

(6) つどいの広場、支援センターの利用経験 (表7)

「利用している」が75.2%、「利用していない」が24.0%となっている。そもそも、つどいの広場や支援センターや講座からアンケートを実施しているため、利用したことのある経験者が多くを占めている。

(7) 子育ての悩み (表8)

最も高いものは「ね. 犯罪や事故に巻き込まれないか」となっている。続いて、「い. 外出の大変さ」、「う. 子育ての身体的な疲れ」や「か. 睡眠不足」といった身体面での負担が多い。また、「お. 子守りをしてくれる人」や「し. 幼稚園や保育園のことがわからない」などの項目も多くなっている。

自由記述からは、遊び方や離乳食といった情報提供をはじめ、「不安になった際に寄り添ってほしい」や「しんどいときに子どもの世話をしてほしい」といった心理的支援やレスパイトケアのニーズもうかがえる。身体的にも心理的にも子育て負担が母親に大きくのしかかっており、それを一人で抱え込んでいる姿が見てとれる。

表8 子育ての悩み

	総得点	平均点	0	1	2	3 (点)
あ 子育てを手伝ってくれる人がいない	293	1.22				
い 子連れで外出するのがたいへん	479	1.99				
う 子育てで、身体的に疲れを感じる	470	1.95				
え 子どもが生まれてから経済的に苦しい	283	1.17				
お 急用の時、子守りをする人がいない	425	1.77				
か 睡眠不足だと感じる	435	1.80				
き 配偶者が子どもとかかわる時間がない	333	1.39				
く 配偶者が子育てに協力的でない	190	0.79				
け 子どもと同世代の子どもの近くにいない	267	1.11				
こ 子どもの離乳食や食事について困っている	320	1.33				
さ 予防接種の受け方がわからない	110	0.46				
し 幼稚園や保育園のことがわからない	374	1.55				
す 日常のグチをいう人がいない	247	1.02				
せ 子どもにかかわる人間関係で困っている	180	0.75				
そ うまく子育てができていないと思う	326	1.35				
た 子どもとどう接したらいいかわからない	246	1.02				
ち 子育てをされていて孤立感を感じる	277	1.15				
つ 子育てに自信がなくなることがある	385	1.60				
て 自分の健康や体力に自信がない	358	1.49				
と 子どもが気がかりで、目を離せない	388	1.61				
な 子どもができてから、イライラすることが増えた	361	1.50				
に 子どもがかわいいと思えないことがある	184	0.76				
ぬ 子どもの将来を考えると心配	353	1.46				
ね 子どもが犯罪・事故に巻き込まれないか心配	515	2.13				

表 9 調整・訪問数

	11月	12月	1月	2月	合計
調整件数（電話）	6件	29件	28件	45件	108件
訪問数	6件	22件	24件	37件	89件
訪問実施率（調整件数に対して）	100%	76%	86%	82%	82%

表 10 調整・電話連絡

連絡結果	件数	%	%	備考
1 訪問受諾	93件	44.7%	38.4%	訪問直前キャンセル10件含む
2 電話取材のみ	1件	0.5%	0.4%	
3 都合がつかず	8件	3.8%	3.3%	
4 訪問を拒否	0件	0.0%	0.0%	
5 不在着信等	106件	51.0%	43.8%	番号間違い1件含む
合計	208件	100.0%	86.0%	
連絡先無記名	34件	—	14.0%	
アンケート回答者	242件	—	100.0%	

表 11 訪問業務

活動内容	件数	%	備考
1 個別訪問活動 (訪問後アンケート)	83件 (83件)	89.2% (89.2%)	訪問調査員が記入 対象者が記入, 訪問時に回収
2 直前キャンセル	10件	10.8%	
合計	93件	100.0%	
1 個別訪問活動(1回)	83件	93.3%	
2 再訪問活動(2回)	4件	4.5%	対象者の要請により実施
3 再々訪問活動(3回)	2件	2.2%	対象者の要請により実施
総訪問回数	89件	100.0%	

表 12 訪問対応の状況

支援内容	件数	%	備考
1 情報提供	40件	44.9%	
2 受容	65件	73.0%	話し相手, 聞き役
3 相談対応	39件	43.8%	
4 託児	16件	18.0%	家事等に際しての遊び相手
5 身体測定	0件	0.0%	
6 家事支援	1件	1.1%	
7 助言・指導	11件	12.4%	実際を見てほしい, やってみてほしい
総計	172件	193.3%	
訪問件数	89件	100.0%	

4-4 訪問支援の実施と結果

(1) 調整・訪問件数 (表 9)

訪問総数は83件あり, 再訪問希望者11名のうち, 再訪問できたのは4名(うち再々訪問実施2名)であった。7名は調整できていない。

(2) 調整・電話連絡(表 10)

アンケートの回答者で連絡先を記入している208名(回答者の86.0%)について, 訪問調査を実施に向け, 訪問の可否と日時などの調整のために電話連絡を行っている。しかし「不在着信等」連絡がとれないケースが半数以上となっている。連絡が取れた102

件のうち個別訪問は、「相談員と親とで都合がつかず」8件を含め、101件が受諾され、日頃から不安や悩み、日頃のグチなどを訴える先を求めていることが想定される。しかしながら、「訪問直前のキャンセル」が10件あり、不安や悩みなどを抱えているものの、初めての人と会うのが苦手などのために、訪問を受け入れられなかった人がいたものと考えられる。また、「不在着信等」の中には見知らぬ電話番号であったため、電話に出てもらえなかったケースもあったのではと考えられる。

(3) 訪問業務 (表 11)

家庭訪問員による訪問業務は、83名を対象に実施した。そのうち、対象者の希望による再訪問(2回目)が4名、再々訪問(3回目)が2名となっている。なお、前述したように訪問直前のキャンセルが10件(10.8%)となっている。

(4) 訪問対応の状況 (表 12)

89件の訪問実施では、話し相手や聞き手としての対応が多く、緊急に児童相談所などに報告するような事例はなかったようである。しかし、中には対応について検討し、スーパーバイズなども受けながら継続的対応を行った例もある。また、子育ての不安感が強く、訪問を複数回希望する人も見られた。訪問実施後のアンケートでは、83人(100%)がよかったと答えており、非常に高い利用者満足度となっている。以下に主な対応について示したい。

①情報提供

情報提供では、保育所の評判や内情、保育所の利用の注意点や子育て支援センターやつどいの広場などの拠点事業の情報を知りたいといったものが多い。

②受容や相談対応

話をきいてもらうだけで満足されたということが多いようだが、家族問題や孤立感などの訴えも多くあったようである。「親、友人、行政にも頼ることができない」や「知り合いがいないため、話し相手や相談相手になってもらってよかった」という感想もみられる。また、離乳食や子どもとの遊び方の相談も多くあったようである。このような相談では、実際に相談員が見本を示したり、具体的な助言や指導を行っている。

③託児

少しの時間子どもを見てほしいといった希望が多かったようである。相談員が子どもと遊ぶ姿から母親が関わり方のヒントを得たり、少しゆっくりできてよかったといった感想もあったようである。

④助言・指導等

助言や指導としては、母親の育児方法について実際に確認してほしいというニーズから行っていることがわかる。例えば、離乳食を食べさせているところを見てほしい、スプーンの角度、離乳食の食べ方、離乳食の形状などを実際に見てほしいといった希望が複数あったようである。他にも自分が子ども遊んでいる方法が正しいのか、寝かしつけ、歯の手入れ、ハイハイなど発達を促進するための関わりが出来ているのか、実際に見てほしいといったニーズから助言・指導を行っている。

5. 考察とまとめ

本事業をとおして、訪問相談における一定のニーズが一般家庭にあることが導出されたと考える。訪問時の結果としても、情報提供や細やかな助言指導を行った対応から虐待の予防的な相談支援につながっており、意味ある事業だと評価される。

本事業は、「児童虐待再発防止訪問型システム事業」という名称において実施された取り組みであるが、その目的は虐待のハイリスクを抱えた家庭への再発防止のための訪問支援ではなく、潜在的なリスクを抱える一般的な家庭への訪問支援である。そこでは、虐待予防や子育て不安への対処ということをも目的として訪問活動に結び付けていくことが最も重要となる。本事業では、子育てをしている親が興味のある講座などへの参加を通じてアンケートに答え、訪問調査に繋げており、短期間の間に多くの訪問が実施されたことについて

て、高い評価を行うことが出来る。また、訪問時の対応においても、情報提供や孤立への対応、離乳食や子育てへのアドバイス、託児ニーズへの対応など幅広い子育て不安への対応を行っているといえる。専門性や緊急性の高い事例についても、専門機関との連携のなか、丁寧に支援に結び付けている。しかし、この事業の今後の実施については、改善の余地がある。以下3点において課題と今後の方向性を示しておく。

まず1点目に、本事業を虐待予防としての位置づけ明確にしていくために、積極的な訪問相談支援として機能させていく必要がある。本事業は、虐待の潜在的リスクを抱える一般家庭に対して訪問相談支援を行った事業であるが、既存の子育て支援として位置づけられている訪問活動や乳幼児健診の中においても、子育て不安や虐待の軽微なリスク、潜在的なリスクを抱える家庭について把握されることも多い。しかし、把握されても重大ではないと判断された場合、その場だけの対応で終わり、具体的な支援に結びついていない現状がある。例えば、乳児を抱える全家庭への訪問活動として実施されている乳児家庭全戸訪問事業では、虐待の明確なリスクがある場合においては養育支援訪問事業などに繋がっているが、貧困や子育て不安などの悩みであったり、潜在的な虐待のリスクに対しては、地域の相談機関などを紹介されることはあっても、継続的な訪問相談支援に結びついていないことがある。同様に、乳幼児健診などにおいても訪問相談支援を必要としている家庭について把握されることがあるが、虐待や障がいリスクの少ない状況では、保健師等が訪問相談支援を行うという対応に結びついていないことが多い。本事業が今後展開していくことを考えた際、既存の子育て支援施策との密な連携を行い、ハイリスクのみ特化した支援とならないよう訪問相談を実施する虐待予防に対するより効果的な訪問活動として事業展開していく必要がある。

2点目に、本事業を身近な訪問相談支援として位置づけていくことが重要である。本事業を実施する上において欠かせないことは、子育てをしている家庭や一般市民に身近な訪問活動として認知してもらう工夫を行うことである。まず、今回の事業名については虐待という言葉も入っており、イメージとして利用しにくい事業となっているため、より利用しやすい事業名を考える必要がある。また、アンケートの配布先としては、講座や子育て支援の現場だけではなく、乳幼児健診の場や保育所、幼稚園など多くの子育て家庭が利用している場を活用していくことが重要である。今後利用者支援事業^{注1)}として、地域において子育て相談の中核的な拠点が設置されるなか、一つの積極的な相談支援のあり方としてこの訪問型子育て相談が位置づけられることが必要であると考えられる。

最後に、より専門的な支援が展開できる人、体制の整備が重要である。今後の事業継続を考えた際には、より困難な事例に対応できる専門職の配置や体制を構築していく必要がある。様々な専門職の活用や他機関との連携を構築していくことが欠かせない。そこでは、行政や地域機関における各部署を超えた情報の共有や事例の検討などが重要となってくる。制度的な位置づけとともに、財源の確保や「子育て支援における地域包括支援」への組み込みなど取り組まなければいけない課題は多いと考える。

注釈

注 1) 「利用者支援事業」の目的は、「子ども・子育て支援の推進にあたって、子ども及びその保護者等、または妊娠している方が教育・保育施設や地域の子育て支援事業等を円滑に利用できるよう、身近な実施場所で情報収集と提供を行い、必要に応じ相談・助言等を行うとともに、関係機関との連絡調整等を実施し、支援すること」²⁾である。

引用・参考文献

- 1) Ms ねっと：「奈良市児童虐待再発防止訪問型支援システム事業報告書」, p. 1 (2016)
- 2) 内閣府：「地域子ども・子育て支援事業について」, <http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/administer/setsumeikai/h270123/pdf/s3-1.pdf> (2016.11.30)
- 3) Ms ねっと：「奈良市児童虐待再発防止訪問型支援システム事業報告書」, pp. 11-22 (2016)

付表1 アンケート用紙

封筒に入れて、1週間以内に投函して下さい。

こちらから電話をさせていただき、実際に家庭訪問を体験していただくこともございます。ご協力のほどよろしくお願いたします。

- ① 氏名
- ② 住所
- ③ 電話番号
- ④ アンケート配布場所
- ⑤ お子さんの年齢を教えてください。
1 0歳 2 1歳～2歳 3 3歳～4歳 4 5歳～6歳 5 7歳以上
- ⑥ あなたと同居している家族を教えてください。
1 配偶者 2 義母 3 義父 4 実母 5 実父 6 その他 ()
- ⑦ あなたの年齢を教えてください。
1 20歳未満 2 20～24歳 3 25～29歳 4 30～34歳 5 35～39歳 6 40歳以上
- ⑧ 現在子育てしている地域に、何年住んでいますか。 1 1年以下 2 5年以下 3 6年以上
- ⑨ 奈良市つどいの広場・支援センターを利用していますか。 1 利用している 2 利用していない
- ⑩ 子育てについてあなたが相談している人は誰ですか。(いくつでも)
1 自分の友人 2 配偶者 3 子どもが生まれたあとの親友達 4 インターネット上の友人・知人
5 親子で集える場所にいるスタッフ 6 保育所・幼稚園などの先生 7 助産師等
8 行政窓口の職員 9 自分の親 10 配偶者の親
- ⑪ 子育て訪問支援がありましたらしてほしい支援や聞きたい情報があればお書き下さい。
- ⑫ 子育ての不安や負担、悩みについておたずねします。あなたについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	非常に そう思う	ある 程度 そう 思う	あまり 思わ ない	全く 思わ ない
あ) 子育てを手伝ってくれる人がいない	1	2	3	4
い) 子連れで外出するのがたいへん	1	2	3	4
う) 子育てで、身体的に疲れを感じる	1	2	3	4
え) 子どもが生まれてから経済的に苦しい	1	2	3	4
お) 急用の時、子守りをする人がいない	1	2	3	4
か) 睡眠不足だと感じる	1	2	3	4
き) 配偶者が子どもとかかわる時間がない	1	2	3	4
く) 配偶者が子育てに協力的でない	1	2	3	4
け) 子どもと同世代のこどもが近くにいない	1	2	3	4
こ) 子どもの離乳食や食事について困っている	1	2	3	4
さ) 予防接種の受け方などがわからない	1	2	3	4
し) 幼稚園や保育園のことがわからない	1	2	3	4
す) 日常のグチをいう人がいない	1	2	3	4
せ) 子どもにかかわる人間関係で困っている	1	2	3	4
そ) うまく子育てができていないと思う	1	2	3	4
た) 子どもとどう接したらいいかわからない	1	2	3	4
ち) 子育てをしていて孤立感を感じる	1	2	3	4
つ) 子育てに自信がなくなることがある	1	2	3	4
て) 自分の健康や体力に自信がない	1	2	3	4
と) 子どもが気がかりで、目をはなせない	1	2	3	4
な) 子どもができてから、イライラすることが増えた	1	2	3	4
に) 子どもがかわいいと思えないことがある	1	2	3	4
ぬ) 子どもの将来を考えると心配	1	2	3	4
ね) 子どもが犯罪・事故に巻き込まれないか心配	1	2	3	4

ご協力有難うございました。

